

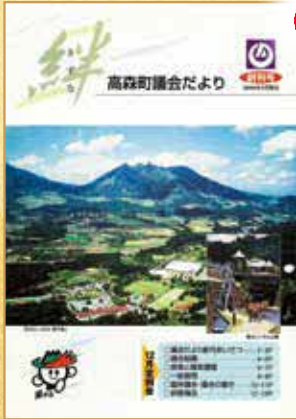
絆



熊本県 高森町
熊本阿蘇「野の花と風薫る郷」

議会だより

3月定例会



高森町議会だより「絆」100号に寄せて	2
3月定例会	4
一般質問	9
常任委員会報告	12
臨時会	14
総務文教常任委員会視察研修報告	15

創刊からの歩み



風まる
No.100
令和8年5月発行



高森町議会だより

絆

100号に寄せて



議長(議会広報発行責任者)
牛嶋 津世志
6代 広報委員長

議会広報誌『絆』発行100号おめでとうございます。

1期目は、議会広報誌58号から参加し、広報誌の表紙写真をほぼ1人で担当していました。以前の広報誌の表紙写真を参考にしたり、先輩議員からアドバイスを受けたりしながら撮影をしていました。定例会が始まると、今回は何を撮ろうかと苦労していたのが昨日の事のようにです。

2期目は、広報委員長となり広報誌変革を少しずつ試みました。町民の皆さんに分かりやすい、読みやすい広報誌作りを現在の委員会でも目指し努力しているところです。

3期目は、発行責任者として、参加しております。

今回100号の発刊編集に参加する事を大変嬉しく思い、議会広報誌が今後ますます発展していく事を願って、100号の発刊をお祝いします。



佐橋見 誓香
初代 広報委員長

広報『絆』発行第100号おめでとうございます。

「絆」と名前を付けてくれたのは佐伯君である。メンバーは杉永竹範、野中謙三、甲斐廣國、後藤和昭、甲斐正一、佐伯金也、佐橋見誓香の7名であるが、意気揚々としてはなかった。発行申し合わせ事項に広報委員は、「広報規程にすべての責任を負う」の一行が重かった。また、私に委員長が務まるかどうか。これ又重かった。

このたび、『絆』が第1号から第100号までたどり着いてくれました。ありがとうございます。おめでとう。1から100まで苦があり楽あり、山あり谷あり、褒められたり、けなされたり、泣いたり、笑ったり、私たちは、広報委員として良い人生経験をしたと思う。

高森町議会広報『絆』が、1000号2000号と発行されることを願います。平成20年から脳梗塞と共に生きる先輩です。



本田 生一
2代 広報委員長

私は現在、副議長として議長の補佐役を務めており、議会広報特別委員会の2代目委員長です。平成15年の4月から4年間務めさせて頂きました。この間には九州北部豪雨災害や熊本地震など様々な災害が発生しましたが、ほぼ復旧も終え復興に向かって進んでおります。

私の地元の防災道路には地元有志の皆様協力のもと、道路沿いに桜が植えられ、サクラミチとして高森町の観光の一つとなっています。また、南鉄も全線運転再開、高森駅も新しくなり、駅周辺の整備も進み、今後の町の観光拠点へと進められています。

これからも町の発展のため、町執行部と議会がさらに連携を取りながら進めてまいります。また、議会広報紙『絆』においては私たちの時代と変わり、よりよい広報紙になっていると思います。

これからも皆様方のご愛読をよろしくお願ひ申し上げます。



甲斐直三
3代 広報委員長

創刊100号発行されるにあたり
大変に喜ばしく思います。

先般、議会日より『絆』99号の編集後記で、創刊作成に携わった当時の広報委員長にこぼれ話をとの事、すでに議員職を離れて十数年過ぎて居ますのでマニュアルでお許しを頂きます。

議会の活動状況、討論の内容、地方自治に関心を持っていただけのよう、議会の紹介を広く町民の皆さんに、議会日より『絆』に努めました。特に平成19年から22年まで4年間で、第10回熊本県町村議会広報コンクールで、高森町議会広報『絆』が入選に輝き、「見やすさ、写真等」も全体的にすつきり感があつてよかつた
と高い評価を戴き、議会事務局、編集委員のチームワークと汗の結晶であつたことの想い出があります。任期満了迎えますが、町民の皆様と議会の架橋となられる議会広報委員のご活躍に期待致します。



立山広滋
4代 広報委員長

高森町議会日より『絆』第100号発行にあたり一言ご挨拶申し上げます。

私も4期、議員を務めて参りましたが、その中の2期8年間、広報委員長として微力ながら議員だよりの発行に携わらせていただきました。いうまでもなく議会だよりは、定例会や各委員会での審議内容、決定事項、一般質問などをまとめ、住民の皆様へ報告する広報誌ですが、「住民の皆様が開かれた議会」を念頭に誰が読んでもわかりやすい内容、住民参画を促し、議会と町民をつなぐ役割を担っています。

定例会後の委員会開催が数回ありますが、自分自身の研鑽として、また後輩議員への橋渡しとして今後広報誌が強い絆として発展していく事を願います。
私の議員活動は終わりましたが、一町民として今後の高森町の繁栄に何らかの形で携わっていただけたらと思っております。



興柁 壽一
5代 広報委員長

議会日より『絆』第100号発行誠におめでとうございます。私たちの頃は、議会報告会や、特にTPCの開局は、議会の生中継もはじまりという事で大変注目されました。半面、広報誌の役割、必要性等について真価が問われるようになり紙面の内容の一層の充実が急務となり、「広報誌から議会が見える」をモットーに町民と議会の架け橋「絆」として、新たなページ「町民の声」を開設しました。毎号2名の方から高森町に對する率直な思いや希望などの投稿を頂き、議会に参加してもらい、その「声」を基に一般質問をさせもらつた経緯があります。
第100号発行、25年近くの歴史があるかと思いますが、ご愛読頂いた皆様方に感謝申し上げます、今後の議会日より『絆』の更なるご活躍をご祈念申し上げます。



佐伯金也
「絆」発案者

議会広報100号を記念し第1号創刊時の話をという事で、当時どのようにして広報紙『絆』が出来たのかと振り返ってみました。

第1号発刊は2000年の2月という事で私が議員3期目、児玉國広さんが議長をされて私が副議長でした。現在が2026年だから、かなり以前の事ですね。広報誌の名前をなぜ「絆」にしたのかということですが理由はいたつて簡単で、議会と住民のみなさんとの「つながり」を強め町政に関心を持ってもらおうと「絆」きずなという名前を提案したら当時、私からすれば親世代の他の議員さん達が金也君の言うとおりと承諾してもらい決定しました。その『絆』が今や100号とは、ありがたい事です。

広報誌作成は編集が大変で、いつ広報たかもりに吸収されるのか危機感をもって見ておりますが、広報委員さん達のがんばりでこれからも続くものと思っております。歴代の議長さん、広報委員さん、ありがとうございます。

令和8年第1回3月定例会

議案32件を審議し、1件を修正可決、31件を原案のとおり可決した。

令和7年度一般会計補正予算(第10号)

3億1,172万9千円を追加

予算総額 109億531万1千円

修正可決

議案第33号 令和8年度高森町一般会計予算について、子育て支援センター改修工事請負費当初予算額1億4千万円を513万4千円に減額する修正案を賛成多数で可決した。

《歳入内訳》

(単位：千円)

項目	修正前	修正後	備考
国庫補助金	10,266	0	次世代育成支援対策施設整備交付金
町債	124,600	0	一般財源(子育て支援施設整備事業費債充当)
町費	5,134	5,134	一般財源
歳入計	140,000	5,134	

《歳出内訳》

(単位：千円)

項目	修正前	修正後	備考
工事請負費	140,000	5,134	子育て支援センター改修工事請負費
歳出計	140,000	5,134	

《修正案理由》(産業厚生常任委員長報告から抜粋)

- 当初予定額(約5千万円)から3倍(1億4千万円)に膨れ上がるのは想定外であること。
- 築後約50年の建物に膨大な改修費用をかけ、今後どの程度維持・活用が可能か疑問であること。
- 高森中央学園構想の推進と併せ、新校舎や学校付近での建設や、現在の芙蓉館を取り壊し新たに建設する等の意見が多数あり、ここで一旦立ち止まり再検討が必要であるとの結論を得たこと。

議決結果

議案番号	議案名	佐伯	本田	後藤	牛嶋	後藤	甲斐	佐藤	児玉	武田	白石	賛成	反対	結果
		金也	生一	三治	津世志	巖	節男	文武	幸之助	栄喜	豊和	(○)	(●)	
議案第33号	令和8年度高森町一般会計予算について(修正案)	○	○	○	-	○	○	●	○	○	○	8	1	修正可決
	令和8年度高森町一般会計予算について(修正案以外の予算)	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	9	0	

※議長は議事進行のため、賛否表明はしません。

反対討論

修正案が出されるに至った委員会の判断、考え方、まさしくそのとおりだと思う。ただ、附帯決議という対応はできないのか。議会も執行部も同じ方向を向いていれば、修正をせず附帯決議をつけ、一緒に考えるのが、ベストと思う。

賛成討論

1億4千万円が結果的に新築と同額かそれ以上となる事例も聞く。過去にも附帯決議をつけたが、後から後悔することが多い。一度立ち止まり、新築、解体のリスク等を十分に議論し、長く続くような施設をつくりたい。

令和8年度一般会計予算

87億5,513万4千円

対前年度比 9億1,513万4千円増

主要事業等（抜粋）

国・県補助金活用事業

事業名	概要（目的）	事業費
合併処理浄化槽設置整備事業	浄化槽の普及を図り、生活環境の保全及び公衆衛生の向上に寄与する。	事業費 1,010万円 合併処理浄化槽設置整備補助金 602万円 一般財源 408万円
町営住宅整備事業（中川原団地建替事業）	入居者の安心・安全な生活を担保し、主に子育て世代への安価な家賃での住居提供にも配慮する。	事業費 2,060万円 公営住宅整備事業補助金 1,030万円 一般財源 1,030万円

単独・その他事業

事業名	概要（目的）	事業費
高森峠千本桜園地改修整備事業（第3期）	四季を通じた景観の向上及び来園者の安全性・利便性の向上を図る。	事業費 7,436万円 過疎債 5,201万円 一般財源 2,235万円
学校給食費完全無償化事業	町独自で中学校・義務教育学校後期課程の学校給食費を無償化し、全生徒の完全無償化を実施する。	事業費 1,809万円 補助額 0万円 一般財源 1,809万円

「ふるさと応援基金」活用事業

事業名	概要（目的）	事業費
たかもりポイントカード行政ポイント付与負担金	地域に人とお金を循環させるデジタル地域通貨「たかもりポイントカード」の運用を展開する。	事業費 3,859万円 地域未来交付金 304万円 ふるさと応援基金 3,555万円
熱中症対策エアコン設置費用補助事業	熱中症弱者（高齢者・障がい者・乳幼児）を含む世帯に対しエアコン設置費用の一部を補助する。※条件・上限額あり	事業費 100万円 (ふるさと応援基金)
ふるさと応援高森町春の感謝祭イベント負担金	令和4年度に開催した「高森町秋の感謝祭」第2弾イベントとして「高森町春の感謝祭」を開催する。	事業費 1,000万円 (ふるさと応援基金)
高森町ふるさと地域づくり応援事業	文化拠点を中心とした地域活動や新たな取組みを支援することで地域のつながりをより強くする。	事業費 631万円 (ふるさと応援基金)

「未来のまちづくり基金」活用事業

事業名	概要（目的）	事業費
パパママ応援「子ども・子育てフェスティバル（仮称）」	地域で子育てを応援し、親の孤立解消と安心感を創出するため開催する。	事業費 650万円 (未来のまちづくり基金)

令和8年3月定例会 主な質疑応答

議案第9号

高森町交流センターの指定管理者の指定

質疑 「佐伯金也議員」

対象施設には芝生広場やトイレも含まれるのか。

応答 「生活環境課長」

広場と外のトイレも含まれる。

議案第10号

高森町奥阿蘇物産館等の指定管理者の指定

質疑 「佐伯金也議員」

奥阿蘇物産館は草部地区の入口として非常に大切だが、指定管理料が無料のうえ施設老朽化により指定先の負担がかかり過ぎると大変であり、事業継続が難しくなる可能性があるが、どのように考慮しているのか。

応答 「生活環境課長」

今回の指定について、あらかじめ指定先にヒアリングし、事業継続の意思や運営状況等について事前に協議している。

議案第11号

高森町奥阿蘇特産品加工場の指定管理者の指定

質疑 「佐伯金也議員」

加工場において、有害鳥獣対策としてジビエの有効活用を希望されているが、その協議があったか。

応答 「生活環境課長」

指定先との事前協議ではジビエに関する話はなかった。

質疑 「後藤巖議員」

各指定管理者の管理期間を1年に設定している理由は。

応答 「生活環境課長」

以前は3年間だったが、観光協会に指定した際から1年と

なった。また、指定先を公募ではなく、条例に基づき町長が特別な事情があると認める場合は町が指定先を指定可能ではあるが、毎年の経営状況等を確認したうえで更新するため1年間としている。国では3年から5年間が一般的だが、その場合は公募が適当と思われるため、慎重に検討しながら設定したい。

議案第12号

高森町過疎地域持続的発展計画

質疑 「佐伯金也議員」

人口減少が進む地域を持続的に発展させ、満足いく行政サービスを提供するためには施設の管理費が多大な負担になってくるが、この計画において財政的な懸念はないか。

応答 「財政係長」

本計画内では幅広く事業を計上しているが、過疎債を活用する事業の財源確保が主な目的であり、実際の事業着手においては財政状況を考慮し十分精査して慎重

質疑 「佐伯金也議員」

令和8年度予算内の扶助費が8億円で総額88億円の7.9%だが、ふるさと納税制度がなければ総額約45億円に対し16%に膨らみ非常に不安が集まるが、財政的な見込みを含めた町長の見解は。

応答 「町長」

草村町政4期目の4年目を今年迎え、議会と執行部が両輪となり色んな取り組みが出来て非常に強い財政的な基礎が出来たが、その財源の大半が流動的なふるさと応援寄付金や企業版ふるさと納税である。同時に、一方で行政がやらなければならない徴収も含め固定資産税の大幅増額や税額確保も進めてきた。この取り組みを継続し、議論を深める形を次に上げることがこの計画の裏付けになり、まちづくりが進み、最終的にはその次の4年間につながる。企業版も含めたふるさと納税がなければ扶助費割合が上がることを十分理解したうえで、議会と一緒に進めていくことが出来ればカバー出来るものと考えている。

議案第23号

高森町立学校施設等の開放に関する条例の一部改正

質疑 「佐伯金也議員」
高SPOが柔道場等を使用した場合の使用料は。色んな方々に様々なスポーツを体験していただくためにも無料とすべきでは。

応答 「教育委員会事務局長」
実費分については全て負担を求めている。

議案第27号

令和7年度高森町一般会計補正予算

質疑 「後藤巖議員」
多面的機能支払交付金及び中山間地域等直接支払交付金の減額理由と今後の事業方針は。

応答 「農林政策課長」
高齢化に伴う組織解散により対象面積が減少した。今後ますます農地の維持管理が難しくなるが、事務局がサポートし組織を維持できるように今後も取り組む。

質疑 「児玉幸之助議員」
生活支援お米券配布事業の減額理由は。

応答 「住民福祉課長」
前回の無料配布で住民の8割が利用した実績から今回も8割の見込みで予算化した。一部割引のため利用が伸びず、米農家から直接購入される場合もあり、実際には4割の利用に留まった。

応答 「町長」
とても成功だと思われる。

物価高騰対策として12月24日の町民全員2万ポイント給付によりお米券に対する要望が顕著に減った。今回の財源となった交付金未使用分を国に返金する必要があるが、物価高騰対策は他にもあり、全額を確実に何らかの形でお届けする。

質疑 「佐藤武文議員」
天神・月廻線道路改良工事の減額理由については、町長から明確な説明が必要では。

応答 「町長」
当初は順調に進捗していたが、用地も含め思うように工事日程を進めることが出来なかったため、一旦予算減額したうえで、新

たに令和8年度予算に計上させていただいた。遅延理由は多々あるが、詳細計画が至らなかつたこと、危機管理感覚が欠けていたことは否めず、町民や議員にお詫びを申し上げたい。来年度計上した予算は全力で進めさせていただきたい。

議案第33号

令和8年度高森町一般会計予算

質疑 「白石豊和議員」
たかもりポイントカード関連予算の詳細と年末に給付した2万ポイントの使用状況は。

応答 「政策推進課長」
ポイントチャージ機能導入システム改修等。昨年末に給付した2万ポイントは90%以上が既に利用、金額的には1億円を超える額が町内で循環している。

質疑 「後藤巖議員」
子育て支援センター改修工事について、当初の見込額が5千万円程度だったが、人件費や資材の高騰により今回1億4千万円になった。既に築45年の物件で

あり、解体後新築等は検討されたか。

応答 「住民福祉課長」
全員協議会での説明後、産業厚生常任委員会において、町有財産の最大限の有効活用が最も重要であり、老朽化進行防止、防災拠点機能強化、子育て支援体制の充実等を総合的に勘案すると町の持続的発展と長期的視点から実施すべき事業であると判断した。

質疑 「武田米喜議員」
高森駅周辺土地購入後の利活用策や展開の考えは。

応答 「町長」
高森駅周辺開発では駅周辺用地が必要なのが大前提。アンケートで要望が強かったビジネスホテル誘致や中川原団地の建替えもあり、用地不足が懸念されていた中、地権者から譲渡の意思表示を受け今回提案した。駅前から裁判所に抜ける町道は交通量が非常に増えており道路改修が必要である。梶原一騎先生のご家族からご提供いただいた物を駅周辺に展示し観光誘致につなげることも必要。新校舎建設に伴う仮校舎設

置や歩行者等の安全対策、企業誘致や道路改良工事等も含め、用地を事前に取得しておく必要がある、議会とも相談しながら様々な計画を進めたい。

【佐伯金也議員】

質疑

予算内での割合が多い人件費、扶助費、委託料の妥当性について、住民サービスの充実が目的であり否定はしないが、一定の方針は出しておく必要があると思われるが。

【財政係長】

応答

今回の予算編成においては全体の3%予算シーリングをかけ、最終的に町長の判断をいただき予算化しているが、予算総額が大きくなり膨らみ非常に苦慮している。物価や人件費高騰に加え、委託料も昨年から約1億円増加しており個別に審査している。予算削減のプロジェクトはさらに進めていきたい。

【佐伯金也議員】

質疑

①インバウンド対策として観光施設のフリーWiFi化が望まれるが通信料が影響する。光ファイバーサービスを提供するたかもり光の経営状況は。

②今後のTPCの運営方針は職員主体か、外部委託するのか。

③スクールバスについて、東学園校区では買物支援にて活用しているが、中央学園での検討状況は。

④高SPO事業補助金と高森町スポーツ協会助成金の違いは。

⑤給食費無償化において、現時点での給食費滞納状況は。

【政策推進課長】

応答

①令和7年4月に再契約したが経営状況は悪くないと判断し契約を更新した。現在の通信料はルーター込みで4950円であり比較的安いと思う。観光施設のフリーWiFi化は前向きに検討したい。

【町長】

応答

②外部委託は考えていない。都会と情報格差が生じないよう情報通信基盤を整備し、町民の方々の情報共有を果たすツールのひとつとしてたかもりポイントチャンネルが生まれ、最終的にまちづくりの強化につながっている。ケーブル会社に委託した自治体ではなかなか思うような放送が出来ず、生中継や生放送などとして

も難しい。人件費に係る委託費は過疎債のソフト事業を充てており、一部有料化の話もあるが私の任期中は町負担で進め、その責任として情報通信基盤基金に上積み出来ればと考えている。

【教育委員会事務局長】

応答

③健康推進課と協議中。中央学園校区スクールバス2台を11人乗りに変更後、令和8年度中に事業開始予定。

【健康推進課長】

応答

③事業開始のため、東学園と同様に中央学園校区内支援員にも中型免許取得を依頼し運転手の手配を進めている。

【教育委員会事務局長】

応答

④高SPOは一般社団法人で各種教室の開催、高森町スポーツ協会は規約に基づく団体で各催事を開催。お互いの理念は一致しており両団体の一体化を進めたが、協会側が保有する基金の整理が調整出来ず頓挫した。

⑤令和元年以前の滞納者は3名、総額21万9880円。町税も滞納しているため、税務課と連携して徴収に取り組んでいきたい。

議決結果

議決結果については、全会一致で可決したため、議案の詳細については右記QRコードを読み取りご確認ください。



町政を問う 一般質問



■ 第4次高森町新教育プランの進捗状況

■ 今後の高森町立学校施設整備 (高森中央学園・高森東学園)

児玉 幸之助 議員

質問 第4次高森町新教育プランにおける具体的な成果や課題等の進捗状況は。

教育長 プランの重点テーマである「自立した学習者の育成」「多様性への対応」「教職員の働き方改革」の3点については、町内3校は文部科学省の「リーディングDXスクール」に指定され、ICTをフル活用した「自己調整学習」を推進している。その成果として、ICTコンテンツでの最優秀受賞や、タイピングコンクールでの全国3位入賞、さらに「日本ICT教育アワード」

での特別受賞など、外部から高い評価を得ていることが報告された。

二十歳の集いでのアンケートでは、約9割が「ICT教育が役立つ」と回答し、教育改革の具体的な成果が示された。また、教職員の負担軽減については、ICT支援員や公務用スマホの導入を進めているものの、多様化する学校ニーズにより時間外労働の大幅削減には至っていない。その対策として、令和8年度より生成AIの校務活用を強化し、さらなる負担軽減を目指す方針が示された。

質問 令和6年度高森町小中学校統合等審議会答申以降の高森町中央学園義務教育学校構想に関するこれまでの動きと、今後のスケジュールは。

教育長 高森中央小学校と高森中学校を統合し、施設一体化の義務教育学校とする計画は、令和11年度(2029年度)の開校を目標としている。基本構想では、中学校敷地内に小学校課程用の2階建て新校舎を設置し、概算事業費は23億7750万円と試算されている。この計画は昭和57年からの長い議論を経て、リーマンショック等による停滞を乗り越え、約20年越しに具体的始動に至ったものである。来年度(令和8年度)より具体的な事業着手に向けて調査や調整を進める予定である。

質問 高森東学園の現状と今後の施設の在り方は。

教育委員会事務局長 高森東学園については、児童生徒数の激減が深刻な課題として浮き彫りになっている。

令和14年度には新入生2名、総児童生徒数も現在の43名から15名まで減少する見込みである。4年後の令和11年度には後期課程が複式学級と

なり、教職員数も削減される予想が立てられている。

教育長 児童生徒数減少を受け、現在は渡り廊下で繋がっている旧小学校と旧中学校の施設を、旧小学校校舎への集約、管理効率の向上や、浮いた維持管理費を教育の質の向上に充てるためには、多くの課題が残っている。

現状の過大な施設規模では、「児童生徒が集まりにくい」「職員間の情報共有が図りにくい」といった課題。ただ、施設集約で解決することは可能かもしれないが、「特別教室や管理機能の不足」といった課題が残る。今後、学校運営協議会や住民との議論を重ね、持続可能な学校施設の在り方を慎重に検討していく。

町政を問う 一般質問



白石 豊和 議員

高森町の介護予防の現状と今後

質問 町内の高齢化率の推移は。

健康推進課長 本町における高齢化は年々進行しており、10年前には37.1%であった高齢化率は、令和8年には約45%に達し、75歳以上の割合も増加している。今後、医療費や介護サービスの需要増加が見込まれる中、介護予防の重要性はますます高まる。高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を送るためには、早い段階からの取組が不可欠であると考える。

質問 公民館等での通いの場の開催回数及び参加人数は。

健康推進課長 本町では、県の補助事業を活用し、町内52か所の公民館等を改修し、介護予防の拠点として整備している。現在はずべての施設で週1回以上の通いの場が実施され、100歳体操やポッチャなどの活動が行われている。令和6年度の延べ参加者数は1万3千人を超え、コロナ禍で停滞した地域活動も回復してきている。地域住民が主体的に集い、交流を深める場として定着していることは大きな成果である。

質問 買い物サロン事業の現状と成果は。

健康推進課長 令和7年から開始された買い物サロンの事業は、高齢者の外出支援と交流促進を目的としており、登録者は75名、延べ395名が利用。リピーター率は86.8%と高く、「会話が楽しい」「買い物が便利」といった声が多く寄せられている。一方で、通院など買い物以外での利用を望む声もあり、今後は関係部署と連携した柔軟な対応が求められる。

質問 介護認定の状況は。

健康推進課長 介護認定者数は10年前と比較して一時減少したものの、現在は再び増加傾向にあり、要支援・要介護認定者は約500名となっている。新規認定の主な原因は認知症が最も多く、次いで骨折などの運動器疾患、さらに近年は循環器疾患も増加している。重度化を防ぐためには、早期の気づきと対応が重要。

質問 認知症予防・早期対応の取組は。

健康推進課長 本町では、認知症地域支援推進員の配置や、タブレットによる認知機能チェック、通いの場での見守り体制などが整備されている。また、医療機関と連携した支援体制の強化も進められている。日常の中での変化に気づき、早期につなげる仕組みは、今後さらに重要。

質問 高森町における今後の介護事業の展開は。

健康推進課長 今後の見通しとして、本町の高齢者数はピークを迎えた後、減少していくものの、高齢化率は引き続き上昇し、令和12年には約49.5%に達する見込み。介護認定者数も今後5年間は500人程度で推移すると予測されている。これまで通いの場の取組などにより、介護保険サービスの利用が抑えられたことから、今後も介護予防事業を充実させ、健康維持の取組を継続していくことが重要である。

町長 ふるさと納税を活用した人材確保事業を実施しているが、新たな人材の確保は依然として厳しい状況。そのため、外部からの人材確保に加え、若い世代への資格取得支援など、人材育成にも踏み込む必要性がある。また、今後の国の制度改正を踏まえつつ、中山間地域の実情に応じた独自施策の検討も必要。

町政を問う 一般質問



町有財産の管理状況及び利用計画

佐藤 武文 議員

質問 公用車の保有台数、各車両の稼働状況や、保管状況は。

総務課長 日常の業務で使用している車両が計30台。ほか道路路面清掃車や給水車等の特殊車両18台。各分団管理の消防車両が19台、ライドシェア用の車両が4台、リース車両5台、カーシェアリング車両2台。合計で78台を保有している。今後は、公用車をカーシェアリング車両に切り替えていくことも検討している。

稼働状況は、令和7年4月から11か月間で、1台当たり平均約6500キロほど走行している。ワンボックス車両や買物支援にも利用されている東学園のスクールバスは、平均1万キロを超える走行距離となっている。

役場で管理する車両は、現在全てが屋外での保管となっている。

質問 町有林の管理状況について、団地ごとの状況、今後の管理、利用計画は。

環境課長 町有林は22団地あるが、監視員は高齢化や成り手不足により、現在は監視体制を休止している。

本年度、現地調査を実施したところ、間伐等の森林整備を要する団地や主

伐による更新を検討すべき団地も確認された。団地ごとの施業方針を整備し、町の森林経営計画に位置づけながら、計画的な森林整備を進めていく。

質問 遊休町有地、特に中心市街地の空き地となっている町有地の今後の利用計画について、中心市街地の危険家屋や空き家がなくなつたことは、非常に良かったが、いつまでも空き地のままでは、町がとも寂れたように思う。例えば、町有地の宅地分譲を含めた譲渡、払下げ、交換などは考えられないか。まちのにぎわいを取り戻すため、遊休町有地解消のための具体的利用計画または方向性は。

令和6年3月に提出された高森町中心市街地土地利用計画に関する提言書では、中心市街地に関する創出のための民間企業誘致や周辺整備が提言されている。南阿蘇からは、高森駅前賑わい創出オーバートリズム解消事業としてトウクトウクを導入、まちなかのにぎわい創出を図っている。今後は、国の地域未来交付金等の補助金を利用し

ながら、遊休町有地に店舗型のコンテナを設置し、貸し出すようなことも検討していきたい。

町長 ビジネスホテルの誘致進出については、提言書で提言を受け、進出企業等がないか、また前向きに考え、バックアップする県や民間団体がいないか交渉も進めているが、あくまでも、進出していただけることが前提となる。町だけでは難しい部分もあり、町以外の機関とタッグを組んで何か提案できないか進めている。

御寄附いただいた土地所有者の方は、町民の皆さんに使っていただけるような施設や、いつも訪れていた、将来のまちづくりの中心となるように使っていただきたいという御意向もあるので、尊重する必要があります。草村町政16年目の令和8年度では、町道の改良や梶原一騎先生の作品の展示室の設置なども検討している。

遊休町有地の利用計画については、大きな方向性を示したいと思っておりますので、議会にはしっかりと説明を果たしていきたい。

総務文教常任委員会報告

☆閉会中の継続調査

1月22日から23日にかけて、人吉市・湯前町・八代市にて、視察研修を行った（後ページに研修報告有り）。

☆会期中の委員会審議

3月13日、3月16日、委員会に付託された「高森町過疎地域持続的発展計画」「草部辺地ほか3件に係る辺地総合計画」「高森町たかもりポイントカード基金設置条例」「高森町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正」「高森町一般職員の給与に関する条例の一部改正」「高森町たかもりポイントカード条例等の一部改正」「令和7年度高森町一般会計補正予算」「令和8年度高森町一般会計予算」「令和8年度高森町鉄道経営対策事業基金特別会計」を、所管各課、局より詳細な説明を受け審議した結果、すべての議案を可とした。

◎高森町過疎地域持続的発展計画について

説 過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の施行に伴い、本計画が令和7年度末で期限を迎えることより、令和8年度から令和12年度までの5か年計画を策定するもの。

意 5年の計画でもあり、職員が継続的に計画を策定できる体制を作っておく必要がある。また、各辺地総合計画は地域の声を丁寧に取り上げると共に山東部課題検討委員会の意見も参考に。

◎高森町たかもりポイントカード基金設置条例について

説 今後のたかもりポイントカード事業の運営資金を基金化しアップデート等に備える。またポイント付与の財源も含む。財政と協議し今後の運用に支障のない程度を想定している。

◎高森町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例等の一部改正について

説 議会議員、高森町長、副町

長、教育長の報酬の変更、高森町報酬及び費用弁償条例の一部改正により、代表監査委員の報酬額を変更するもの。主なものとして、議員は現行月額22万2千5百円を23万4千3百円に、町長は月額74万1千9百円を78万1千円へ、代表監査委員は月額6千4百円が8千8百円となる。現状は熊本県下で2番目に低い議員報酬である。報酬自体は平成30年4月の適用時に戻した形であり、今後を含みを残した形としている。

◎高森町立学校施設等の開放に関する条例の一部改正について

説 高森中学校の体育館利用に対し、冷暖房を使用する場合、1時間あたり3千円を加算して支払う。金額は近隣自治体の社会体育施設を参考にした。中学校体育館のアリーナ、2階の武道場いずれの使用でも同額の利用者負担が生じる。

◎令和7年度高森町一般会計補正予算について

質 繰越明許費として高森東学園キュービクル取替工事が次年度事業にあがっているが、遅れた背景と今後の工事を尋ねる。
答 全国的にキュービクル式高圧受電設備の需要が高く、メーカー側が発注過多の状況で納入が間に合わなくなった。事業は来年の1月設置予定。
◎令和8年度高森町一般会計予算について
質 各種たかもりポイントカード事業について尋ねる。
答 令和8年度中にチャージ機能追加、前期の実績をベースに134事業に対し行政ポイント付与を予定している。
意 ポイント付与事業に課・局への偏りが見られるので、2年目の運用の中で更に磨きをかけていき、提出課と担当課でチームを組んで新たな付与事業に取り組んで頂きたい。

以上、慎重に審議した結果、委員全員異議なく可とした。

☆閉会中の継続調査

3月6日 建設課・町道天神・月廻線について、住民福祉課・子育て支援センター改修工事について担当各課より詳細に説明を受け、質疑応答を行った。

☆会期中の委員会審議

3月13日、3月16日、委員会に付託された「高森町特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を定める条例の制定について」「高森町敬老祝金給付に関する条例の一部改正について」「高森町介護保険条例の一部改正について」「令和7年度高森町一般会計、各特別会計および事業会計補正予算6件」「令和8年度高森町一般会計、各特別会計および事業会計予算6件」は、担当課から詳細な説明を受け慎重に審議した結果、委員全員異議なく可とすることに決定した。

◎高森町敬老祝金給付に関する条例の一部改正について

【説】 現金支給していた敬老祝金を高森ポイントカードへのポイント給付に改正する。

【意】 現金支給を望まれている方もいる。88歳、100歳の方には、現金支給の方法もあるので。

今回は一部改正の内容で可とするが、本年度敬老祝金は9月であるため、それまでに敬老会等と協議し対応するよう要望する。

◎令和7年度高森町一般会計補正予算について

【質】 多面的機能支払交付金、中山間地域等直接支払補助金の大幅な減額の要因は。

【答】 令和6年度から令和7年度にかけて、19組織から18組織に減少、また、中山間地域等直接支払い組織は、25組織から23組織へ減少したことによる。

◎令和7年度各特別会計及び事業会計補正予算について

令和7年度の事業実績による国・県の補助金の確定や不用額の減額補正対応であった。

◎令和8年度高森町一般会計予算について

修正案の提出について

国庫支出金と、地方債を合わせた1億3486万6千円を減額し、修正計上する。

なお、子育て支援センター建設については、全委員賛同することに変わりはない。

※修正案に関する詳細は、4ページに記載。

【質】 町道天神・月廻線改良工事の工事請負費再計上と進捗状況は。

【答】 移転登記や担保物件解除登記が3月中に完了する。新たに令和8年度に予算を計上し、事業完了を目指す。

【質】 合併処理浄化槽設置整備事業について、各年度末に減額が相当見られるが、その要因は。

【答】 新築家屋が少なく、新築だけでなく、昔ながらのトイレの改修が事業対象となることを知らない方がいるため、事業周知に努めていく。

◎令和8年度各特別会計及び事業会計予算について

それぞれの目的に沿った事業で、適正に予算化されていることを認めた。

以上、慎重に審議した結果、修正案について、委員全員異議なく可とし、修正案を除く令和8年度一般会計予算、令和7年度一般会計補正予算、令和7年度各特別会計及び事業会計予算、令和8年度各特別会計及び事業会計予算、条例等議案についても委員全員異議なく可とした。

令和8年 第1回臨時会

承認1件、議案5件を審議し、原案のとおり承認・可決した。

令和7年度一般会計補正予算(第7号)

9億4,104万5千円を追加

予算総額 105億7,895万円

※主にふるさと応援寄附金の増額及び返礼品等の増額(9億円)に伴うもの。

議決結果

議案番号	件名	議決結果
承認第1号	専決処分の承認を求めることについて(令和7年度一般会計補正予算第6号)	承認
議案第1号	財産の取得について(屋外広告用LEDビジョン3台)	原案可決
議案第2号	町道の路線変更について(上在・昭和線)	原案可決
議案第3号	令和7年度高森町一般会計補正予算について	原案可決
議案第4号	令和7年度高森町国民健康保険特別会計補正予算について	原案可決
議案第5号	令和7年度高森町鉄道経営対策事業基金特別会計補正予算について	原案可決

(令和8年2月3日)

令和8年 第2回臨時会

承認1件、議案2件を審議し、原案のとおり可決した。

令和7年度一般会計補正予算(第9号)

667万2千円を追加

予算総額 105億9,358万2千円

議決結果

議案番号	件名	議決結果
承認第2号	専決処分の承認を求めることについて(令和7年度一般会計補正予算第8号)	承認
議案第6号	工事請負契約の締結について 工事名 高森駅周辺無電柱化工事(6工区) 契約金額 203,907,000円 契約先 株式会社南陽建設 代表取締役 古沢 隆(南阿蘇村)	原案可決
議案第7号	令和7年度高森町一般会計補正予算について	原案可決

総務文教常任委員会視察研修報告

1月22日・23日に人吉市・湯前町・八代市を訪問し研修を行った。

人吉市・湯前町

☆行政視察の目的

南阿蘇鉄道と同じく被災した、くまがわ鉄道株式会社の発災当時から現在に至るまでの状況とこれからの展開を聞くとともに、湯前駅から肥後西村駅まで復旧した路線を乗車し、各駅の状況、利用客を確認した。

くまがわ鉄道からは永江社長、下林営業課長が対応、委員4名と随行で政策推進課長、議事事務局含め3名で意見交換をした。

○令和2年7月の豪雨災害の状況

被害として、保有車両5両全車が浸水、球磨川第4橋梁が流出したことを含め駅や線路などの被害を合わせ、約50億円の被害が出た。

○現在の乗客者の動向

乗客のメインは通学客であり、約85%を占めている。これは実際に湯前駅から乗車した時、乗客約15名程度に対し車両が3両で運行していたが、終点の肥後西村駅で折り返すときに代替バス5台に乗った学生たちが乗車してきて満席になったことで確認できた。

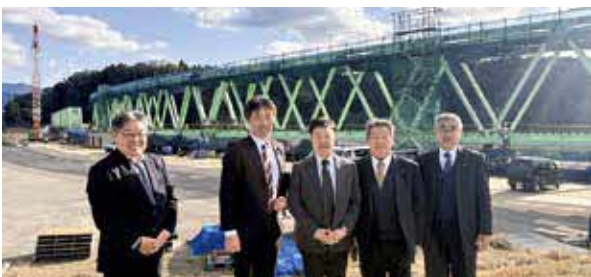
○これからの運営に向けた課題

南阿蘇鉄道が行っている、地域全体で鉄道を守るマイルールの意識向上を図るとともに、地域おこし協力隊の活用など行政との関係強化、企業応援団制度の構築による運営基盤の強化を目指したい。

○これまで行ってきたPR策や行うストーリーなど

永江社長が考案した「鉄印帳」は全国の第三セクターで取り扱いされており、自社だけでなく鉄道を巡る旅に貢献したと思う。また独自に「見て応援！流して応援」とユーチューブ番組を作成、全国・全世界に発信、支援の呼びかけをしている。各駅も「おかどめ幸福駅」「おっばい神社」など点を線で結び、「人生の成就」をストーリーにインバウンドを含む乗客の増加を図りたい。

委員会としては、南阿蘇鉄道が被災した際、ご支援をいち早く頂いた縁もあり、できる限りの支援、協力をしたいと思った。



八代市

☆行政視察の目的

令和7年第2回定例会、一般質問にて町長がインターネットラジオについて言及があり、FM局とインターネットラジオの違いを確認するため、八代市役所1Fにスタジオを置く、株式会社エフエムやつしろを訪問した。

エフエムやつしろからは多田取締役をはじめ2名、八代市からは松田担当係長が同席、当方は昨日と同じメンバーで意見交換を行った。

○株式会社エフエムやつしろの業容

「かっぱFM」の名で親しまれている同社は、コミュニティFM局として平成9年10月に熊本県下2局目の放送局として開局した。平成24年10月よりインターネット環境での聴取もできるようになった。

○FM局とインターネットラジオの違いは？

大きく3点の説明を受けた。

・設備投資に係る金額

FM放送は防災面に役立つことをメインとしており各種補助金の活用ができるが高額である。例えば不感地帯解消のため中継局の設置に1局約3000万円必要である。その点インターネットラジオは費用面でかなり軽減できる。

・災害時のリスク

インターネットラジオは、光ファイバーなど流出した場合、復旧に時間を要すが、FM局の場合は無線である特徴を生かし、電源確保すれば情報提供ができる。

・楽曲使用に関して

JASRACに支払う著作権料はコミュニティFM放送協会を通じ契約をしているので問題ないが、インターネットラジオの場合、個別の契約や条件など考慮する必要がある。

委員会としては、当町には大手企業もなく、財源面の課題クリアが難しい、自前で設備を整えスタジオを設置する困難さを考えると、通信基盤整備を活用したインターネットラジオが適していると感じた。





議会の動き

	期 日	内 容	場 所		期 日	内 容	場 所
12月	16日(火)	高森町子ども議会	高森町	1月	20日(火)	熊本県町村議会議員研修会 (オンライン)	高森町
	21日(日)	中九州横断道路大津熊本道路着 工式	合志市				高森町人権のまちづくり懇親会
1月	3日(土)	高森町二十歳の集い	高森町		22日(木)	高森町青少年育成町民会議啓発 講演会	高森町
	11日(日)	高森町消防出初式	高森町		23日(金)	熊本県後期高齢者医療広域連合 定例会議案等説明会	熊本市
	12日(祝)	尾下どんどや	高森町	2月	6日(金)	熊本県後期高齢者医療広域連合 定例会及び全員協議会	熊本市
	13日(火)	阿蘇青年会議所新年賀詞交歓会	阿蘇市		16日(月)	公営住宅の再整備および跡地利 用に関する検討会	高森町
	15日(木)	菊池郡・阿蘇郡町村議会議員研 修会	菊陽町		20日(金)	熊本県町村議会議長会定期総会	熊本市
	16日(金)	阿蘇市町村議長会総会	阿蘇市				

「議会広報表紙写真」と「町民からのご意見・ご質問」に応募し、採用された方にたかもりポイントの付与をいたします。

応募はそれぞれ右側のQRコードよりお願いします。

表紙写真 採用	注意点	QRコード
5,000ポイント	人物写真の場合、以下の点に注意してください。 ①本人からの掲載許可（同意） ②子どもの場合、保護者の同意 トラブル防止のため、同意書などの取得をお願いします。	
ご意見・ご質問 採用	注意点	QRコード
2,000ポイント	個人が特定される投稿や、誹謗中傷については掲載いたしません。 紙面の都合上、毎号掲載できるわけではございません。ご了承ください。	

編集後記

議会広報「絆」が100号を迎えました。

ここまでの道のりは、歴代の議長、委員長を始めとする委員の皆さまのご尽力、そして一番大切な住民の皆さまにご覧いただいたからこそ辿りついたと感じています。

記念号では歴代の広報委員長にお祝いの言葉をいただきました。

思い出話を読みますと、受け継がれてきた思いを感じるとともに、議会と住民を繋ぐ「絆」としてこれからも研鑽に努めてまいります。

これからの議会広報誌にどうぞご期待ください。

これまで関わっていただいた皆さまに感謝を申し上げます。

7代 広報委員長 後藤 巖

議会広報特別委員会

議 長 牛嶋津世志（発行責任者）
委員 長 後藤 巖
副委員 長 児玉幸之助
委 員 白石 豊和
委 員 武田 栄喜

